

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

今日は年度末。学校や会社、官公庁などでは、今日は一年のひと区切りの日だ。新年、新年度は、心機一転のチャンスで12月31日に

一年の悔いを捨て、3月31日には自らのぶがいなさきに「きよなり」を言い、新年度になれば新たな希望に第一歩踏み出すケシメのチャンスだ。

古代ギリシャの哲学者キプロスのゼノンはあるのに、口はたった一つしかないのは何故か。それは、より多く聞き、話すのはより少なくするためだ」と説いている。そして物理学者の寺田虎彦は、短文集「柿の種」で「眼は、いつでも思った時にすく閉じることができようになつていく。しかし、耳のほう

は、自分では自分を閉じることができないようにできている。なぜだろう」と問いかける。

このことを身近に考えさせられる話題がある。人工知能(AI)を使った対話型ソフト「チャットGPT」。

「長野県の魅力は「春をテーマに作詞を」式

情報の真価を見定める 「聞く力」を身に付けよう

典のあいさつを「などあらゆるテーマを注文すると、スラスラと答えてくれ、いままで人間が何時間もかかる作業を数秒でやる」との情

報だ。言葉を弄して評価された時代から、最良の

答えをすぐに引き出せる時代に求められるのは「聞く力」。自分でじっくり考え、情報の真価を見定める力を身に付けるには、「聞く力がより求められる。自らを振り返って、人の言葉をききききり、言道を巡り、

道を含めて話し合う新たな「再構築協議会」の仕組みについて、「地域の合意なくして廃線することはない」と明言したが、更に大系線での存続施策の実効性が求められていく中、地域住民の乗車人員の増加策も大切だが、地域住民が取り組める活動を考

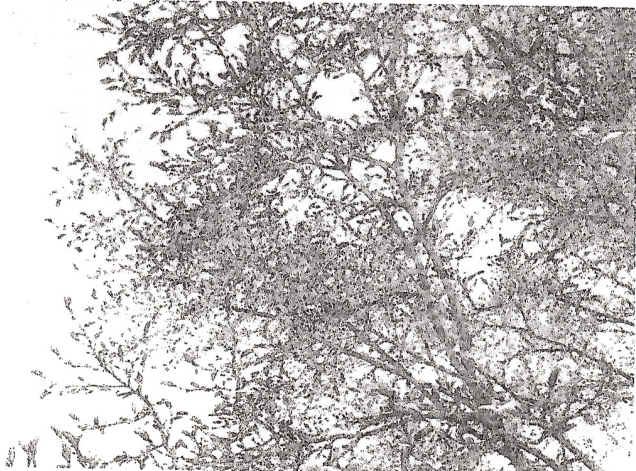
新たな「再構築協議会」の仕組みについて、「地域の合意なくして廃線することはない」と明言したが、更に大系線での存続施策の実効性が求められていく中、地域住民の乗車人員の増加策も大切だが、地域住民が取り組める活動を考

「苦情として聞くのではなく、相手の真意を聞き取ることが大切」だと、実績を示す指導者や経営者は常に伝えている。新年度の

新たな目標として「聞く力」を身に付けなければと考えてはどうだろうか。

3月の衆院国土交通委員会では、斉藤鉄夫国土交通相は、利用者減少で経営の厳しい地方鉄道を巡り、

「苦情として聞くのではなく、相手の真意を聞き取ることが大切」だと、実績を示す指導者や経営者は常に伝えている。新年度の



「こぶし」の開花が早い春の訪れを告げている

えることも大切だ。毎日、線路わきで地元の人々が列車に手を振る活動が展開されている地域もある。車窓から観られるよう花木を植

栽するなど知恵は多くあるはずだ。実行可能な提言を期待したいものだ。
(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)